



会報

第61号
発行者
全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会
会長 山崎 篤史
事務局
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
玉島テレビ放送(株)内
印刷
株式会社玉島活版所

「ごあいさつ」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
会長 山崎 篤史



2024年の始まりに、石川県能登半島地域を震源とする大変な震災が発生してしまいました。被害にあわれた全ての関係される皆様にたいしまして、心からお見舞い申し上げます。小さな子どもたち、子どもたちに関係する皆様も多く被害にあわれているのではと心配しています。全国の仲間の皆様とともに、一刻も早く日常を取り戻せるよう寄り添っていきます。

近年、異常気象や大きな災害が毎年のように発生しています。豪雨、大雪、台風、地震等の自然災害は、ある程度の子報予測は可能なものの、発生自体は止めようがありません。しかしながら、発生は仕方がないとしても防災や減災は可能です。日頃からの心構えや準備がいかに大切なかを学び実践しておくことが重要です。そして、その準備は誰がしておくべきなのか。まず思い浮かべる期待としては、行政の食料備蓄等の災害への備えであろうかと思います。では、行政はどれくらい準備しているのかご存じでしょうか。

小生が地方議員をしていた2019年、東日本大震災を経験した宮城県のある自治体へ視察に伺いました。その時、担当者よりの説明で非常用備蓄食料の目標設定が示されました。「市民70%、行政12%、業者18%」ということでした。「可能な限り自分のことは、自分で守って」というのが自治体の回答です。

私たちは、自分たちが守るべきもののために自分たち自身で備えておく必要があります。子どもたちは、自分たちで準備することができません。私たち大人は、子どもたちを守るための準備もしておかなければなりません。誰かが守ってくれるという甘い考えではなく、自分たちのことは自分たちで守るという心構え、実践が事前

の準備として必要ということだと思います。

私たち、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、全国の子どもたちの安全安心を守る保護者や教職員の先生方の日々の活動を通じて、日本の幼児教育を守り、全国の子どもたちの未来を守る活動をしてきました。国の安寧は、人財によると言われます。その人財は、教育によって育まれます。そして、子どもたちが初めて関わる教育が、幼児教育です。

しかしながら、少子化とともに国公立の幼稚園は減少し、社会のニーズを追い風に保育中心のこども園化が進んでいると言わざるを得ません。幼児教育の重要性は認識しつつも、社会のニーズの優先順位が高く設定されているということでしょうか。労働力不足解消のために共働きできる環境整備をしている。所得が上がらないために共働きせざるを得ない。いろいろな理由、状況はあろうかと思いますが、眼前のニーズに引っ張られすぎて、教育の重要性を軽んじられては絶対にいけないと思います。卵が先か鶏が先かではありませんが、幼児教育の発展充実を目指す活動が、その先にある社会課題の解決に一番の早道である気がするのには私だけではないと期待します。

幼児教育は、全ての社会課題の解決に繋がる。

幼児教育に守られた多くの子どもたちの笑顔こそが、現在直面する多くの難題の特効薬だと思っています。

結びに、いつも子どもたちを大切に想い、この会報を手にとっていただいております全ての皆様に、多くの幸せと輝かしい未来が開かれますことを心から心から祈念申し上げます。

特別寄稿



「子どもたちの輝かしい未来へ」

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 高橋 慶子

はじめに、能登半島とその周辺を中心とした地震において、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。未だ日常を取り戻していらっしゃらないことと存じます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、事故等に遭遇された方々にとりましては突然の出来事に心中お察し申し上げます。

さて、令和5年度も全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会（全幼P）の皆様におかれましては、全国の国公立幼稚園・こども園の幼児教育の推進に向けて多大なご支援とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

全国国公立幼稚園・こども園長会の会長として、改めて全国の国公立幼稚園・こども園が保護者の皆様のご支援により支えられているということを心から感じております。私たちの教育活動は、保護者の皆様の熱い思いと力強い支援があってこそ成り立っています。全幼Pの保護者の皆様と園との協力体制が何よりも重要であるということです。

先日、私の園では周年行事がありました。式典の後、記念祭を開催してくださった保護者の皆様の創造的なアイデア、熱意、そしてご支援は、子どもたちにとってかけがえのない貴重な経験となりました。この経験は、子どもたちの人生において重要な原体験となり、その心に深く刻まれたと思います。また、私たち教育者にとっても励みになり大きな応援団が存在するという安心感と私たちの教育の原動力となりました。多分私の園だけでなく、全国の国公立園でも同様の営みがあ

るかと思察されます。このような素晴らしい環境を作り上げてくださっているのは、他ならぬ保護者の皆様です。私たちは、皆様の無限の可能性と献身的な努力に感謝の念が堪えません。

国公幼は全国に幼児教育の重要性を広く伝える責任を担っております。全国の国公立園の幼児教育は、幼稚園教育要領等に則った本質的な幼児教育を中心に据えています。夏の大会において、全幼Pの旧役員の方が「私は幼稚園教育要領をすべて覚えており、自分の子どもたちを、園と幼稚園教育要領で育てたといっても過言ではない」とおっしゃってくださいました。今も鮮明に記憶に残り、本当に感銘を受けました。この教育の価値を広く社会に伝えることは、私たちの使命であり、これを達成するためには保護者の皆様のご協力が不可欠です。そして全国の国公立園の存続に向けても保護者の皆様の力が一層必要とされています。

今年も全幼Pの皆様とのつながりを強固なものにし、共に手を携え、子どもたちの輝かしい未来を創り上げていきたいと思っております。各国公立園は、保護者の皆様にとって満足感の高い教育の場であり続けるよう、努力し研鑽を積んでまいります。今後とも皆様の継続的なご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

結びに貴会の益々の発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、辰年初めての私のあいさつとさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第61回

全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 in 大分大会

大会実行委員長挨拶

萱島 大治

大分大会に参加して

2023年7月29日30日の2日間大分市のホテル日航大分オアシスタワーにおいて第61回国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「大分大会」が開催されました。

私自身、今回委員長としての立場で全国大会に携わり幼児

教育に対しての学びにつながるともよい機会を頂けた事に對してまずは冒頭感謝申し上げる次第です。

さて、まず29日の様子についてです。

初日は全国より役員・理事が一堂に会し役員会ののちに理事会が開催され、実行委員長という立場で参加させていただ

きました。

理事会では令和4年度の会計報告から始まり新役員の選考、令和5年度の活動方針等について議事が行われ、滞りなく全ての議事について承認されました。

情報交流会では、大分県内を中心に全国からも多数お集まりいただき、総勢二百人以上の参加者にて盛大に開催されました。

開会の言葉に続きウェルカムコンサートとして“大分チェロ軍団”による演奏が披露されました。特に印象に残ったのはやはり“荒城の月”でしょうか。“軍団”という名前に恥じない上品な中にも重厚感も感じられる迫力ある演奏で時間が許せばもっと聴いていたいたい素晴らしい演奏でした。



<大分チェロ軍団>

大分県教育委員会岡本天津男教育長の乾杯で始まった交流タイムでは和やかな懇談となりました。次期開催県の香川県によるうどんをかけたサプライズじゃんけん大会もありとても楽しい交流会になったのではないのでしょうか。

さて、翌30日は開会式・表彰式からスタート。文部科学省より総合教育政策局長の藤江陽子様・大分県知事佐藤樹一郎様・全国国公立幼稚園・こども園長会会長高橋慶子様の御来賓挨拶ののち、令和5年度PTA活動表彰が行われました。

表彰式後には総会が開催され、前日の理事会での議事内容の報告と審議が行われ、スムーズな進行のおかげで滞りなく全ての議事が承認されました。

総会後は、アフリカンサファリ取締役園長・獣医師でありTVでも活躍されている神田岳委先生による記念講演。「どうぶつと共に生きる」というタイトルで、私は今回初めて神田先生のお話を聴きましたが、これが笑いあり涙ありの素晴らしい内容でした。特にライオンの赤ちゃん（サクラちゃん）の話では会場全体が話に引き込まれ、思わず涙を流す方も多くいらっしゃいました。

休憩を挟み午後からは提案発表という事で京都府・佐賀県・宮崎県の幼稚園から取組発表がありました。

京都府京都教育大学附属幼稚園はタイトルにもあるように、これまでの伝統を生かしながら、コロナ禍にある子どもたちのために工夫を凝らしたPTA活動の取組についての発表で



<情報交流会>

した。

佐賀県吉野ヶ里町立東脊振幼稚園は、園のPTA活動の他に園とPTAが団結して行った「スマイルプロジェクト」という活動内容を紹介していただきました。

宮崎県美郷町立西郷幼稚園の発表では、幼稚園と義務教教育学校を一体とした11年間という連続性のある取組についてのお話を聞かせていただきました。

3園それぞれが現代社会、時代のニーズに合わせ、子どもたちのために園とPTAが一丸となってPTA活動を進めている姿を感じ、多くの学びがありました。

提案発表では、「コロナ禍の制約の中で様々な工夫をしたPTA活動がなされていることや、園と保護者が協力すると共に地域を巻き込んでの子育てがなされていることなどが素晴らしい」と文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室室長補佐中上郁夫様及び全国国公立幼稚園・こども園長会会長高橋慶子様からお褒めの言葉を頂くと共にご指導ご助言も頂きました。最後のプログラムは文部科学省初等中等教育局幼児教育課長藤岡謙一様による講話。「園と保護者が連携し信頼関係を構築するためには」をタイトルとした講話では、現在の公立幼稚園を取り巻く状況の説明後、幼児教育に関心が高まっていることから、質の高さが求められている、という現状に対して、公立幼稚園としては社会のニーズに対応した運営が求められていること、地域の小学校や保護者等から必要とされる存在になることが求められている等



<提案発表>

のお話がありました。ペリー就学前プロジェクトや数の感覚等興味深いお話が続き、今後の幼児教育の必要性を十分に認識させられ、学びにつながる講話だったと感じました。

私自身、今後は地域の重要な幼児教育の場である公立幼稚園の存続を願うべく、自分自身に何が出来るか、出来る事を探っていきたいと感じた大変有意義な講話でした。

本大会を開催するにあたり、まずは多くの方々が全国から来て頂いたことに心より感謝申し上げます。また、大会の運営委員・実行委員を務められました保護者・先生方、また情報交流会・総会・大会にご参加いただきました保護者・先生方に改めまして感謝をお伝えしたいと思います。皆さま方のご協力なくしては全国からのご参加頂いた方々のおもてなしもありませんでした。全ての行事が無事に終わったことは、

ひとえに皆さま方のお力添えの賜ものと心より感謝申し上げます。



＜清松督雄 大分大会運営委員長＞

(保護者)

このような会に参加するのは初めてで最初は不安が大きかったですが、神田先生のお話等を聞き、涙がでるくらい心がとてもあたたかくなりました。全国大会という名前を聞くとすごく難しい会なのかなと思いがちですが、今回足を運んでとてもよかったと思います。

(保護者)

今回初めて参加させて頂きましたが、改めて先生・地域の方々・保護者の情熱、協力の中で子どもたちは成長しているのだと感じました。記念講演では“どうぶつと共に生きる”をテーマに面白く、時に目頭が熱くなるすてきな話を聞くことができました。

参加者の声

(教師)

たくさんの人が集まり久しぶりに開催された全国大会。他県の先生方や保護者の方とおいしいごはんや素敵な演奏を聴きながら話をすることができ、対面開催のすばらしさを肌で感じました。また2日目の講演では笑いあり涙あり、そして発表はそれぞれの活動をきくことができ、学びの多い2日間となりました。この会に参加をしなければ出会えなかった方々との出会いにも感謝の気持ちでいっぱいです。

(教師)

情報交流会に参加させていただき、他園の現状を知ることができとてもよい時間となりました。同じテーブルに大分県内の教師の方ばかりだったので園の困りやこれからの休廃園、行事についてなど不安の共有や情報交換ができたのがとてもうれしかったです。

記念講演

「どうぶつと共に生きる」

九州自然動物公園 九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社取締役園長（獣医師）

講師 神田 岳委 氏



「好きな動物と一緒に働こう」「働きたい」と思い、大分県宇佐市のアフリカンサファリで働き始めて29年になります。獣医師として就職しましたが、通常の動物のお世話である飼育や営業の仕事もしながら、現在に至っています。動物園で

の仕事は、仕事ですので楽しい時もつらい時も、楽な時も大変なときもあります。特に動物たちに赤ちゃんの誕生は、嬉しい瞬間の一つです。逆に動物たちが亡くなれば悲しい気持ちになります。

私は大分県出身で、父も母も動物関係の仕事ではありませんでした。「ただの生き物大好き少年」だったように思います。実家は自然に恵まれた田舎町で、まわりには多くの動物や鳥、虫、ヘビやトカゲなどがいました。そんな中でもヘビが大好きで、話しかけたり服の中に入れたりする幼稚園児だったようです。家族に言わせると「ただの生き物好き」ではなく「変なヘビ好き」だったようですが。小学生低学年の頃は、警察犬の訓練士になりたいと思っていました。これはテレビ番組の影響です。警察犬が出てくるドラマだったのですが、警察犬と訓練士さんの繋がりに憧れたのです。その後、小学校三年生になると我が家でも犬を迎えて飼育を開始しました。警察犬のような大型犬ではなく、日本犬の雑種でした。名前を「ケン」と名付け、毎日一緒に遊びと友人宅に行く時も一緒にお出かけするほどでした。

可愛いケンとの生活は順調でしたが、ある日学校から自宅に戻るとパタリと倒れたケンの姿を発見しました。慌てて父に連絡を取り、近くの獣医さんに往診して頂きました。白髪の先生が来た時に私は「このおじいちゃん大丈夫？ ケンを助けてくれるの？」と今思えばたいへん失礼な事を思ったのを覚えています。そのおじいちゃん先生は、神妙な顔で診察を行い、慌てている私をしり目に急ぐ様子も無くゆったりと注射をしました。すると30分後にケンは頭を上げ起き上がろうとし、1時間後には歩けるようになったのです。「もう大丈夫だよ。」と言いながら先生は帰っていきました。瀕死のケンを助けてくれた白髪おじいちゃん先生。助けてくれるのかどうかと疑っていた私の予想を覆してくれたのです。ケンを助け颯爽と帰る姿は、テレビドラマの俳優の様でした。その時「この人のようにになりたい。ケンを助けたい。動物のお医者さんになりたい」と思ったのです。

中学校、高校とその夢は膨らむばかりで、卒業の文集にも「獣医師になる」と書いています。もちろん、他の職種に憧れたときもありました。学校の先生や科学者などです。高校後の進路を考え始めた時に「やはり獣医師」と考え、運よく獣医学に進学できました。大学生活は順調ではない部分もありましたが、無事に獣医師免許も取得でき卒業の見込みになりました。いざ就職です。

獣医師の就職先は多様です。そのころ何のプランも決めてなかった私は、ぼんやりと「獣医になったら何をしようかな」と考える程度でした。そんなある日「ライオンって可愛いな」と思う自分がいました。それはアニメ「ジャングル大帝レオ」が好きだったことや動物園の主役のような気がしたからです。

日に日に妄想は膨らみます。ライオンと一緒に仕事をしたい。ライオンを治療したい。ライオンの傍にいたい。ハッと思いついたのは「地元大分にはサファリがある。いっぱいライオンいるな。」思いついた私は、電話番号を調べ（当時はネット検索は、なく104番にかけて調べました。）その後、現在の職



場であるアフリカンサファリに突然電話をかけ、就職希望を伝えると獣医師ならいいですよと即決定の返事。私の就活は数分ででした。後で聞いてみると電話をした直前に当時の獣医師の方が辞める事になったようで、私の電話は渡りに船だったようです。電話をかける時期がずれていれば、私は今サファリで働いていないかもしれないと思うと不思議な関係を感じます。

アフリカンサファリの獣医師になって29年が経ちました。獣医師としての仕事はさまざまな動物種、症例に対応しなければならず大変な日々です。経験の浅かった頃は。麻酔が効いていると思った治療中のライオンが突然動き出し大慌てで逃げ出し追加の麻酔を投与した事もあります。キリンの出産時に赤ちゃんがなかなか起立せず、立つのを待って何日も付き添った事。ゾウの足が悪くなり、飼育員と共に何日かほとんど睡眠をとれずに治療したことも覚えています。

色んな経験をしてきました。良い事も嫌な事も経験しました。今でも変わらずサファリの動物たちが好きです。とくにライオンの事が、大好きです。ずっと好きなのです。どうして好きかと問われれば、理由は色々あります。ライオンは、ネコ科なのに群れを作るやさしさを持っているから好き。オスライオンのタテガミがカッコいいから好き。大きな口や手は迫力があるから好き。赤ちゃんが小さくて可愛いから…などなど理由付けすればいくらでも出てきます。しかし、そんな理由は別として単純にライオンが「好き」なようです。変な話ですが、睡眠中の私の夢にライオンが良く出てきます。ほかの動物はあまり出ません。犬やキリンが時々。ライオンと陸上グラウンドを走っている夢やライオンが家のリビングで寝ている夢などです。おかしい夢ですが。

近頃は、正直に「ライオンが好きでアフリカンサファリで働いています。」と言っています。私自身、さまざまなライオンに関係する業務をしてきました。治療、飼育、赤ちゃんの人工哺育。もちろんライオンの飼育は、私にとって仕事です。他の動物との業務のようにライオンの飼育にも良いことも、悪いこともあります。特にライオンの赤ちゃんは、可愛いですよ。およそ1000グラムで誕生するライオンの赤ちゃん

は、可愛い赤ちゃんランキングがあればかなり上位です。私の中ではトップです。そんな可愛すぎる赤ちゃんが産まれる出産時は嬉しく、気分は最高です。反対に動物には寿命があり、病気になる事もある。最終的には亡くなってしまいます。もちろん、すべての動物が亡くなる事は寂しく悲しい時です。動物たちが誕生すれば「この子にこうしてあげよう！」と前向きに思い、亡くなれば「こうしてあげればよかった。」と



後悔します。毎回、同じように思います。

これは飼育員や獣医師だから思う事ではありません。おそらく皆さんも動物と生活した経験のある方なら、意識なく思っていることです。しかし、「動物に何をしてあげれば良いか」または「良い飼育とは何か？」という問題の答えの正解を導き出すのは、とても難しい事です。なにせ一種一種、一頭一頭、習性も性格も何もかも違いますから。

では、どうすればいいのか？まず初めに、動物を知る事です。動物を飼育する前に、生態や飼育方法などを知って欲しいです。今はインターネットで多くの情報が出てきます。もちろん、ほとんどの情報が本当の事です、少し間違った情報も出てきますので、その点は注意が必要です。飼育中の動物に対しても、毎日の行動観察や趣味趣向を感じ取り情報を得る事や知る事は基本だと思います。基本の情報が無ければ、個別に対応する事なんて出来ないので。知りすぎて悪いことなんてありません。飼育は「知る事」が大事です。その情報の量が、良い飼育になる可能性を高めるのだと思います。

つぎに私が思う飼育で大事な事は、「好き」になる事です。好きだから動物を飼うのでしょけれども、飼ってから更に好きに、動物の周りにいる皆さんにも動物を好きになって欲しいのです。好きになれば知りたくなる。さらに知ればさらに好きになる。好循環です。単純に好きと言われて嫌な気持ちになる事は少ないですから。動物もそう思うでしょう。

サファリで一緒に働くおじさん飼育スタッフは「動物が笑う」と言います。動物は、人間のようにワッハハハと声を上げて笑うわけではありません。その動物を知らない人が見れば、無表情に見えるかもしれません。しかし、おじさんスタッ

フには動物の笑顔がわかるのです。私も働き始めには「動物の笑顔」がわかりませんでした。理解できませんでした。しかし、経験を経て、動物の事を知り、一頭一頭の名前を覚え、さらに好きになると不思議とわかるようになるのです。動物の笑っていることが。そうです、動物は笑います。

おじさん飼育スタッフが私に教えてくれた飼育のコツは「自分がされたら嬉しい事」を動物にするという事です。そのスタッフは、動物一頭一頭に優しく名前を呼びながら挨拶をしたり、エサを「どうぞ」と言って与えたりします。私も真似をするようにしています。皆さんも小さな事から始めてください。今日、帰ったら「ただいま」と水槽の金魚やメダカにも言ってあげてください。わんちゃんと散歩に行くときには、面倒でも疲れていても笑顔で行ってあげてください。するといつかみなさんが飼育している動物も良い顔で皆さんに笑うようになるかもしれません。動物の笑顔を感じた時、きっと皆さんも笑っているはず。自然な笑顔になっているに違いありません。私は、それが動物のしあわせである「飼育」の理想だと思うのです。

将来、私は獣医師と言うより、動物たちと人間を繋ぐ「通訳」のような存在になりたいと思っています。動物の気持ちが理解できるか？それは誰でも難しいでしょう。ただ好きでいる事で、より動物の気持ちに寄り添い、少しでも理解できるようになるのではないかと考えています。その内容を、子どもたちに伝えていきたいと思っています。そうすることで動物への理解が進み、様々な動物保護や環境保全にも役立てるのではないかと感じています。ただ「通訳」の責任は重く、間違った翻訳を行えば大きな誤解を生むことも認識しています。

いつか動物たちが「通訳してくれてありがとう」と言ってくれる日を思いながら、これからも頑張ります。はたしてそんな日がくるのでしょうか…。

ちなみに、この原稿の写真は私が撮影したものです。とくにライオンが可愛いですね？自分から言っちゃうんですが「うちの子たちは、可愛いんですよ！」

申し訳ないですが、最後は単なる我が子自慢でした。



提案発表

「附属子の笑顔のために」 ～ 伝統を守りつつ コロナ禍からチェンジした PTA 活動 ～



京都教育大学附属幼稚園
令和4年度育友会 会長
内田 麗奈

1 はじめに

京都教育大学附属幼稚園は、京都府下最大かつ政令指定都市である京都市の行政区の1つで市内最大の人口を擁する伏見区の桃山という地域にあります。

江戸時代から明治初頭まで伏見は「伏水」と表記されていたほど、質の高い伏流水が豊富な地であり現在でも日本を代表する酒造会社を多く有する酒どころでもあります。また、桃山という地域は、安土桃山時代の時代名に用いられ、豊臣秀吉が生涯を閉じるまで居城した伏見城が築城されるなど一大都市として繁栄しました。園児が過ごす本園の屋上からは、この再建された伏見城が望め、古き良き歴史を感じながら豊かな自然の下、元気いっぱい過ごしています。

2 園の概要

本園は、明治18年4月、京都府女学校の師範学科に附属幼稚園として創立されました。昭和43年3月6日に大学の附属学校整備5年計画の一つとして、現在地に新築移転しました。昭和47年4月に2年保育課程と3年保育課程の2系列になり、同9月に現在の名称に改称しました。

現在、子育て支援ならび就学前教育の充実・強化を進める必要性から完全3年保育実施への移行期であるため、学級数は、3歳児1学級(2グループ)、4歳児1学級(2グループ)、5歳児1学級、幼児数は96名(令和5年度4月現在)となっております。

3 育友会活動

附属幼稚園のPTA組織は、本園、附属桃山小学校、京都小学校、中学校、高校、支援学校の6校園が一体の組織となり育友会と称されています。

本園の育友会には、本部を統括とし、文化部・体育部・文芸部・ベルマーク部があり、園内での行事を企画・実施した

り、6校園の合同行事へ参加したりしています。

～各部の取り組み～

《文化部》

【第46回 納涼大会 ～親と子のタベ～】(園共催)

「納涼大会 親と子のタベ」は、夜の幼稚園に集い、普段とは異なる幼稚園を楽しむ行事です。

令和4年度は、密にならないよう安心・安全に行事を進める為、プログラムを縮小、二部制で実施しました。5歳児が描いた「あんどん」、園庭での「盆踊り」、保護者が企画・作製した「魚釣り」、園児や先生の手形で作った大きな「花火アート」、「フォトスポットブース」設置など2年間実施できなかった納涼大会を無事開催する事ができました。



あんどん



盆踊り



魚釣り



花火アート

【ハンドベルサークル】

例年、「納涼大会 親と子のタベ」で保護者によるハンドベル演奏を披露してきました。しかし、令和4年度もコロナ禍の為、プログラム縮小に伴い実施できませんでした。代わりに、有志によるハンドベルサークルを立ち上げ、12月のお誕生会において園児にも披露することができました。園児も知っている曲を選曲することで手拍子する姿もみられ楽しいひとときを過ごせました。

【文化部講座】

令和4年度は、育友会会員の親睦・教養を深める目的として、「マクラメハートコースター作り」を企画しました。密にならないように、予め参加者の中から数名を指導係として講師の方から事前に指導を受け、当日は指導係が小人数を教

えるという対策をとりました。学年やクラスを越えた交流を持つことができ、楽しく作製することができました。

【親子音楽鑑賞会】(園共催)

コロナで中止していた音楽鑑賞会を人数制限し、京都教育大学講堂にて開催しました。第一線で活躍されているよし笛・お筆・ヴァイオリンのプロの演奏家をお招きし、親子で素敵な時間を過ごすことができました。

《体育部》

【京附連合同体育大会】(園共催)

附属6校園の育友会会員が集い交流を行う親のスポーツ大会です。令和4年度もコロナのため中止となりました。中止に伴い親子で楽しめるように、スタンプカードとお手玉を配布し、お手玉の遊び方や身体を使って親子で楽しめる遊び方の紹介資料を作成し周知しました。

【幼育合同体育大会】(園共催)

幼稚園と育友会の共催で行う、親の競技と親子の競技を組み入れた体育大会です。大人が真剣に競技に取り組む姿を見たり応援したり、親子で競技を楽しむことで幼児期の素晴らしい経験となり、子どもの成長へ繋がるものと期待して行われています。令和4年度は、コロナ対策として、開催場所を園庭、2部制、アルコール消毒の配備や接触の少ない競技・動線を考慮しました。応援グッズも声を出さないようペットボトルマラカスにしました。また、熱中症対策として屋根のあるテラスを応援席に配置しました。縮小した形での開催を試みましたが、雨天となり中止となりました。



幼育合同体育大会



応援幕



オリジナルTシャツ



《文集部》

文集部は、昭和61年度に創刊した「いちょうの木」を毎年発刊しています。年度当初に一つのテーマを決めて、教職員や育友会会員に原稿を依頼し、育友会活動全般のことを中心に作成します。一年の育友会活動と園児の集合写真、会員一人ひとりの心の込められた思いが、活字や絵を通して伝わってきます。

令和4年度は、学級委員3名と担当係の一般の育友会員で活動しましたが、8名いる担当係のうち、3名は共働き家庭、2名は妊婦、2名は元々保育時間が短い年少児を持つ会員から構成されており、コロナ禍であることも相まって保育時間内での活動が困難な状況でした。そこで、クラウドサービス (google Drive) を使用してデータ管理をし、ページのデザイン等について、家庭の事情を抱えた育友会会員が場所や時間帯に拘束されることなく活動に携わることができました。



いちょうの木



文集打ち合わせ

《ベルマーク部》

【ベルマーク集収】

育友会会員からベルマークやテトラパック、インクカートリッジを回収・整理し、ベルマーク財団に送り、教育設備助成活動を行っています。令和4年度は、ウェブベルマークコンテストに応募し、ウェブベルマーク活動にも力を入れて活動しました。

【お餅つき】(園共催)



お餅つき



鏡餅

毎年12月に開催される幼稚園行事のお餅つきのお手伝いをします。コロナのため中止しておりましたが、令和4年度はお手伝いする大人の人数を減らし、お餅を食べることはせず

縮小した形で実施しました。子どもたちはお餅が蒸せる香りを楽しんだり、お米がお餅に変わる様子をみたりしました。年長児や先生方が杵でお餅をつき、年中・年少児は掛け声を合わせて楽しみました。ついたお餅は丸めて世界に1つ、自分だけの鏡餅にしました。

《本部》

【ぎんなん】(園共同)

園庭には樹齢100年を越えるいちょうの木が園を見守ってくれています。毎年、このいちょうの木には銀杏が実り、園児が銀杏をお箸で拾い、5歳児がぎんなん屋さんを開いています。令和4年度は、銀杏係の育友会会員が主となり、拾ったぎんなんを洗ったり干したりしました。豊作だったため、地域の方々へ自由にお持ち帰り頂けるよう、正門前にぎんなんを準備しました。



銀杏剥きの様子



地域の方々へ

【図書】(園共同)

幼稚園の本を貸出し、自宅で親子で絵本に親しむ機会を設けたいという思いから令和3年度より貸出構築に向けて企画を行い、令和4年度にシステムを構築、貸出をスタートさせました。

【おやじの会】(園共同)

お父さんたちが中心となり、園のウッドデッキのワックスがけをしたり、修繕をしたりしています。

令和4年度は、昨今の家庭環境の変化を鑑み、お父さんだけでなく、お母さんも参加できるように園のシンボルツリーである「いちょうの木」から名前を取り「いちょうの会」として、朽ちたブドウの木の木の整備と藤棚のペンキ塗りを実施しました。

【いじめ対策講演会】(園共催)

昨今、全国各地でいじめの重大事案が発生するなど、いじめ防止対策ならびにいじめ対策問題は重要な課題です。そこで、12月に京都地方法務局及び人権擁護委員の方にご協力頂き、保護者に人権問題を啓発するとともに、園児が保護者と共に参加することで、親子で人権を考えるキッカケを作るこ

とを目的に実施しました。

コロナ禍でもあることから、二部構成にし、第一部は保護者向けに、第二部で読み聞かせる絵本『てん(The dot)』についてご紹介頂くとともに、人権に関するお話をして頂き、第二部は、親子で絵本の読み聞かせを聞く会及び人権擁護の普及キャラクターと触れ合う場を設け、人権擁護活動の案内を行いました。

年少、年中組の園児と保護者向けには、動画配信し、オンライン視聴形式にしました。



保護者向け講演会



園児向け講演会

4 おわりに

本来であればできた、大きな声で歌ったり、友達と手を繋いで遊んだり、先生と触れ合ったりという幼稚園生活での経験が、コロナ禍でままならない中、保護者としてももどかしさを感じていました。

令和4年度になり、対面での行事が少しずつ再開できる年となりました。再開にあたり、子どもたちが笑顔になるような経験させてあげたいという想いとコロナで希薄となった保護者同士の親交を深め、育友会の目的である「会員相互の教養を高める」「幼稚園教育に協力し幼児教育の向上発展に寄与すること」を叶えたいという想いの中で、伝統を守りつつ、育友会会員全員が創意工夫をし活動を行いました。仕事を持つ人や家庭の事情によってPTA活動になかなか参加しにくい人たちでも、参加しやすい環境を作り、PTA活動に少しでも関わってよかった、みんなで楽しんでやれてよかったと笑顔になれるよう、今後も附属らしさを守りつつ、時代の流れに柔軟にチェンジしていきながらPTA活動を行っていければと思います。



京都教育大学附属幼稚園
母なるイチョウの木と共に

提案発表

スマイルプロジェクト



吉野ヶ里町立東脊振幼稚園
令和5年度PTA会長 今熊 竜一



令和4年度PTA会長
平林 卓也

1 はじめに

東脊振幼稚園は、福岡県と佐賀県の県境にまたがる脊振山地南麓に位置し、自然環境に恵まれた吉野ヶ里町にあります。町の北部にある霊仙寺に鎌倉時代の僧である栄西禅師が、約800年前に日本で初めて茶種を蒔いたとされており日本茶発祥の地と言われています。町の南部には町名の由来でもある我が国最大の遺跡で国の特別史跡に指定されている吉野ヶ里遺跡があります。



2 園の概要

本園は、昭和32年設立の私立幼稚園を前身とし、昭和37年に東脊振村立東脊振幼稚園として創立されました。平成10年に他市町村より早く3年保育を開始し、平成17年に現在の場所に移転となりました。

令和5年度の園児数は、5歳児16名、4歳児19名、3歳児11名の計46名です。4年前より時代のニーズに合わせた年少少児（満3歳児）の受け入れも開始した為、現在の3歳児クラスは混合学級となっています。（満3歳児は誕生日の翌月から随時入園）

3 PTA組織について

東脊振幼稚園のPTA組織は、本部（男性）役員、運動会、クリスマス楽しみ会、給食献立会、絵本読み聞かせ会の1部4係制で活動しています。本部役員は、PTA会長を兼任する会長1名、副会長1名、会計監査2名の計4名で構成されています。

また、各会に部長1名、副部長1名が配置されており、3歳児以上の全ての保護者が「一人一役会員」として各会の成

員としてPTA活動に取り組んでいます。

4 PTA活動

夕涼み会

7月には保護者と先生の手作りのおやつ、焼きそば、うどん、ボールすくい、輪投げ、おぼけやしきなどの出店が揃う夕涼み会が開催されます。浴衣姿の子ども達は、櫓もあるお祭り会場となった一味違う幼稚園に大はしゃぎとなります。コロナ禍の為、近年は中止となりましたが、今年度は夏季登園日に先生と園児のみのおまつりごっこが開催されました。



夏季除草作業

8月の最終土曜日に園と保護者が一体となって園庭の除草作業や砂場の土おこしや園庭の安全点検を行います。園庭は、全面芝生の為に除草作業は大変ですが「子ども達の為に」という想いで参加して下さる保護者が多く、毎年数時間程度で終わります。綺麗に整備された園庭で子ども達が安全に遊べる姿を見る事ができ嬉しく思います。



東脊振幼稚園運動会

例年10月に開催される運動会は、コロナ禍でも園と保護者が協力し開催しています。規模を縮小して行った運動会でも熱量は変わらず、みんなが一体となって応援しています。例年であれば園児祖父母、地域の方、次年度入園児、前年度卒園児を対象とした競技があり地域に密着した大規模な運動会です。

クリスマス楽しみ会

先生のお手製衣装を着た子ども達の姿を目にすることができるのは、12月に開催されるクリスマス楽しみ会です。子ども達の演目、演奏は大人顔負けの出来栄です。そんな子ども達へのエールを込めて、パパ会による出し物も毎年好評です。更に、全演目終了後には、サンタクロースが飛び入り参加し、子ども達にクリスマスプレゼントを手渡し、夢のような時間を過ごします。



餅つき会

地域の方に提供いただいた水田で子どもたちの手で田植え、稲刈りをしたもち米を使って開催される餅つき会です。地域の方に協力していただき、竈でもち米を蒸してもらった後は、園児全員が杵でつきまわります。完成した餅は、子ども達の手で丸め地域の方の手作り豚汁と一緒にいただきます。今年度は1月に開催予定です。

(R2年度～R4年度は、コロナ禍の為中止)



給食献立会

給食献立を園、給食業者、保護者が意見交換し食育改善に繋がる給食献立会を各月行っています。子ども達が食べやすく工夫された給食は、子ども達にとっても好評です。また、保護者への献立アンケート調査もあり、子ども達の食への関心も知ることができます。

絵本読み聞かせ会

保護者が隔月1回各クラスごとに発達段階に合わせた絵本の読み聞かせを開催しています。

絵本貸出日には、読み聞かせで読んでもらった本を家庭でも読みたくて、借りる子もいるようです。

徒歩降園

先生方の引率のもと行われる徒歩降園は、30年以上続く東脊振幼稚園の伝統です。子ども達は、先生方と徒歩降園をする事で交通マナーや体力を身につけ幅広い場面で活かされています。

年間を通して徒歩降園を行っていただけることに感謝しています。(4、5歳児が対象)



※徒歩降園の際に使用する歩きバッチ

以上のような継続したPTA活動が評価され、令和3年度に優良PTA文部科学大臣賞表彰を受賞しました。

5 子ども達に笑顔を 《スマイルプロジェクト》

コロナ禍に於いてこれまでとは全く異なる新しい生活様式での生活を送る子ども達を笑顔にしたいという想いの園と

PTAが団結し、『スマイルプロジェクト』を実行しました。いくつか活動をご紹介します。

☆東幼 写真コンクール☆

募集テーマは、『笑顔になるお気に入りの1枚』様々な笑顔になる作品を応募していただきました。

作品は、園児と保護者みんなが閲覧できるよう展示しました。子ども達の無邪気な笑顔や美しい景色などでたくさんの人を笑顔にしました。



☆クリスマス イルミネーション☆

本園には、高さ4mにもなるモミの木があります。このモミの木を主役としたクリスマス イルミネーションを行いました。クリスマスシーズンには普段と違う幼稚園の姿になりました。地域の方も見ることができ、温かい光に癒されたとの言葉をいただきました。



☆Waku Waku day シャボン玉で遊ぼう☆

シャボン玉エンターテイナーに来園していただき、シャボン玉テクニックを披露してもらいました。

身近なものを使ったシャボン玉を作ったり巨大シャボン玉に入ったり、いつもと違うシャボン玉遊びを満喫した子ども達は笑顔がはじけていました。

6 結びに

本園では、保護者と先生方に加え地域の方が一体となって子ども達の成長を見守っています。

PTAとしても、昔ながらの良き伝統を継承しつつ、新しいことにも挑戦し続ける園の姿勢を少しでもアピールしていきたいと思います。これからも子ども達に寄り添い、子ども達の為に何ができるかを考え、子ども達の笑顔に繋がるようや取り組みを継続していきたいと思っています。

提案発表

「義務教育学校との施設 一体型幼稚園におけるPTA活動の 在り方」

～ 連続性のある11年間の学びを通して ～



美郷町立西郷幼稚園

令和5年度PTA会長

富井 栄一

1 はじめに

西郷幼稚園は、宮崎県日向市より西に25kmの山間部美郷町西郷区の中心にあります。

美郷町は、東臼杵南部地域にある旧南郷村、旧西郷村、旧北郷村が合併し平成18年に1月1日に誕生した町です。急峻な九州山地に覆われ、約90%を山林が占めています。町の中央部、南側、北側には大小3つの川が流れ、これら河川の上流域に位置しています。また、西郷ダムや大内原ダムがあり、悠々としたダム湖と深緑の水面、ダム湖を囲む山々の壮さに圧倒されます。この豊かな自然や特産物を活用し、西郷義務教育学校では、ダム湖でのウエイクボードや茶育などの体験学習を行っています。

自然豊かな美郷町の主な産業は、農林業が中心で、特産品として、しいたけ、地頭鶏、米、茶、きんかん、梨、栗などがあげられます。



2 本園の概要

本園は、旧田代小学校の教室を転用し、昭和47年4月1日西郷村立田代幼稚園として開園しました。その後、平成元年

に新園舎に移転し、平成18年には西郷、南郷、北郷の三村合併により美郷町立田代幼稚園となりました。また、令和3年4月、田代小学校、西郷中学校が統合された県内初の義務教育学校、美郷町立西郷義務教育学校に隣接する形で西郷幼稚園としてスタートしました。



また、田代小学校のグラウンドの真ん中に立っている大きな銀杏の木は、美郷町の指定文化財となっており、とても趣のある風景をなしています。

令和5年度の園児数は、4歳児（ゆめ組）9名、5歳児（にじ組）3名の計12名です。



黄葉を始めた旧田代小学校のイチョウ
〈みさと 広報誌より〉

3 義務教育学校の一体型幼稚園

3村の合併当時の人口総数は6,874名でしたが、令和4年までの16年間で4,504人に減少しました。人口減少とともに子どもの数が減少している現状を踏まえて、効果的な教育活動を目指し、「美郷町ならではの一贯教育」を柱に、連続性のある多様な学びの実現を目指しています。そして、「他者との関わりの中で、互いを認め合う力を育むとともに、夢の実現を目指して行動できる15歳」をゴールイメージとしています。

現在、幼稚園から4年生までを前期ブロック、5年生から9年生までを後期ブロックとした教育活動が行われていますが、学校行事や諸活動において、園児～2年生、または園児～9年生での異年齢集団による活動も行われ、多様な学びが行われています。

私たち保護者にとって4歳から15歳までの学びの様子を一齐に参観できることは、子どもの成長過程を見守る良い機会

であると共に、私たち保護者自身も11年間の連続性のあるPTA活動ができていると考えています。

〈運動会の全体練習の様子〉



4 PTA組織及び活動

本園PTAは、西郷幼稚園と西郷義務教育学校を一つの組織として構成されています。PTA組織は、総務部（会長1名、副会長3名）、保体部、施設部、生活・成人部、学年部からなり、幼稚園代表2名も部のいずれかに所属しています。主な活動は、運動会協力、立ち番指導（危険箇所点検・通学路安全点検）、親睦玉入れ大会企画・運営、PTA奉仕作業、地域の行事である御田祭協力、家庭教育学級等です。

しかし、西郷義務教育学校が開校したと同時期に新型コロナウイルス感染拡大による休校や活動の制限を余儀なくされ、ここ2年間は、思うようなPTA活動を実施することができませんでした。

（1）こどもファースト

私たち保護者の役割は、「子どもファースト」であることです。つまり、子どもたちの教育活動が楽しく学び多きものになるように、自分達ができることを行い、子どもたちをサポートする」というシンプルで当たり前のことです。

（2）準備と工夫

「子どもファースト」の実現のためには、事前の話し合いを十分に行ったり、会の持ち方を工夫したりするなどの準備をしっかり行うことが必要不可欠です。初めて役員となった方でも安心して役割を果たすことができると同時に、このような協力体制が確立することで、少しでも「役員離れ」を防ぐことができるのではないかと思います。役員が固定化しつつある状況下の中、「役員離れ」は、今後の大きな課題の一つです。

（3）活動を楽しむ

「子どもファースト」を実現するためには、役員自身が活動を楽しむことが大切だと考えます。楽しむとは、心の幅をもって活動を行うことです。その場の状況によって柔軟に対応していくということです。

5 活動の実際

（1）PTAの親睦を深める「玉入れ大会」

コロナ禍でPTA活動が十分にできない中、保護者のコミュニケーションを深めるために、昨年、「学級対抗玉入れ大会」を参観日に合わせて実施しました。久しぶりの対面での活動で盛り上がりました。「人と人が集う場」は大切であることを再認識しました。



（2）交通安全指導

交通安全指導（立ち番）を実施し、登下校中の子どもたちの見守りを行うと共に登校状況の把握や通学路の安全点検を行いました。実施後は、報告書を学校に提出し、学校と情報の共有を図ることで子どもたちが安心安全に登校できる環境づくりに努めました。

（3）「御田の郷大運動会」

運動会前に、先生方と役員でグラウンド周りの除草作業を実施しました。

また、前日準備では子どもたちでは取り付けが難しい運動会スローガンの設置や長さ12~13mある竹を切り出して、入場門の設置及び児童生徒が行うテント設置のサポートや見守りを行いました。

児童生徒が自分達の力でできそうな時は、見守ること優先させます。決して手をかけすぎないようその案配をみながら、協力していくことを大切にしています。運動会終了後の片付けを行いました。

〈奉仕作業〉



〈前日準備〉



(4) 御田祭

美郷町では、平安時代からの伝統民俗行事「御田祭」が毎年7月に実施されます。この御田祭は宮崎県の無形民俗文化祭にも指定されており、人々が泥まみれになりながら牛馬や御輿を繰り出し整地をした後、田植えを行い、無病息災、五穀豊穡を祈願するものです。この御田祭に、毎年、伝統文化体験学習として園児児童生徒が参加をしています。以前まで、園児は見学での参加でしたが、今年度は、神輿を作成しました。園児～4年生で2基の御輿の作成し、5～9年生は催馬楽（さいばら）や早乙女（さおとめ）を行いました。私たちは、子どもたちが神輿を担ぐ際のサポートや泥落とし補助、法被、足袋洗いを行いました。過去2年間にわたり、中止となっていた「御田祭」でしたが、総務部や学年部を中心に準備を進めることができました。

〈神輿〉



〈催馬楽〉



〈早乙女〉



〈牛馬入れ〉



写真：美郷町ホームページより

6 課題

(1) 学校運営協議会との連携

5月に第1回の学校評議委員会が実施され、「親が変われば、子どもが変わる」というテーマで、ワークショップを行いました。「親の姿はどうあるべきか」という視点から子どもたちへのアプローチを話し合い、具体的に考えました。この内容をPTA活動につなげられる取組を考えていきたいと思います。

(2) 地域による「ちくせん」との連携

美郷町では、人口減少対策の一つとして、各地区の住民が主体となって定住促進の取り組みを定め実践するという地区別定住戦略事業通称「ちくせん」という活動を行っています。各地区で美郷町の豊かな自然や建物等を活用した様々な活動を計画し実践しています。保護者・子ども・地域の方の地域貢献や社会参画にもつながる場にもなってい

ます。昨年度は、このような地域の活動に園児児童生徒及び保護者が参加することにより、保護者同士や地域の方とのコミュニティを深めることにも繋がりました。学校と保護者の連携だけでなく、地域を介しての美郷町ならではのスタイルのPTA活動ができるのではないかと考えています。

〈ワークショップ〉



7 おわりに

私たちが日頃行っているPTA活動はもちろん子どものためです。それは、日頃子どもたちが多くを学び生活している幼稚園・学校をよりよく楽しい場にしていくことだと思っています。ただ、特別なことをして役員さんの負担が大きくなることはしません。今の学校はやることが多くて、先生方方もとても忙しそうです。保護者側から意見や要望を伝えることは簡単ですが、それに先生たちが忙殺され、思ったような教育活動ができなくなると子どもたちの学びの機会が奪われてしまうと感じています。人も時間も有限です。その限られた資源の中で、いかににより良い学校環境をつくるサポートができるかが私たちPTAの役割だと思っています。

私は、会社でも「仕事は楽しく」がモットーです。楽しく仕事をすることで新たな気付きやアイデア、チャレンジがしやすい環境になることが多いです。西郷幼稚園・西郷義務教育学校PTAは子どもたちにも先生たちにも楽しく生活できる学校づくりのお手伝いをこれからも行っていきます。

令和5年度PTA活動振興功労者表彰 令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

おめでとう

令和5年度PTA活動振興功労者表彰

岩手県	阿部 憲也	一関市立巖美幼稚園PTA会長
東京都	中島 聡	東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会元会長
島根県	野々村卓也	島根県幼稚園・こども園PTA連合会元会長
岡山県	竹原美佐子	岡山県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長
徳島県	安芸 隼	徳島県国公立幼稚園・こども園PTA連合会前会長
香川県	紫和恵理子	香川県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会前会長
大分県	黒木 愛子	大分県国公立幼稚園・こども園PTA連合会事務局長

令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

東京都	港区立にじのはし幼稚園PTA
東京都	千代田区立九段幼稚園さつき会
京都府	亀岡市立幼稚園PTA
兵庫県	芦屋市立宮川幼稚園PTA
岡山県	瀬戸内市立邑久幼稚園PTA
徳島県	徳島市立千松幼稚園PTA
香川県	小豆島町立安田幼稚園PTA

●東京都 港区立にじのはし幼稚園PTA活動紹介

「時代に合うPTAの在り方の模索を続けて」

令和5年度 PTA会長 南 麻衣子

この度は、令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰の栄を賜りまして、感謝申し上げます。このような名誉ある賞を受賞できたのは、歴代のPTA役員、会員の皆様の熱意あるPTA活動や、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝しております。

本園は、平成8年4月に、東京都の臨海副都心の開発計画に伴い、港区立港陽小学校（現 港区立小中一貫教育校 お台場学園 港陽小・中学校）に併設して開園し、今年度、創立27周年になります。東京湾臨海部、港区台場に位置し、近くには、大型商業施設やテーマパーク、テレビ局などがあり、

全国から多くの観光客が訪ずれる都内でも有数の観光地です。一方で、江戸時代に砲台として作られた歴史的な第三台場が史跡公園としてあり、園の前には海や砂浜が広がるなど、自然が豊かです。地域の恵まれた自然環境を生かした教育活動を行っています。港区台場は独立した地域のため、台場内にある2つの保育園、併設の小・中学校との連携・交流が盛んです。地域の方々に見守られ、園児・小学生・中学生が一緒に成長していきます。東京都港区でありながら、どこかのんびりしている島のようなよさがあります。

【小規模園におけるPTA活動の課題】

ここ数年、園児数の減少や仕事をしている保護者の増加に伴い、PTA活動を負担に感じる保護者が微増してきました。保護者数の減少は、一人ひとりの保護者の活動量が増え、役

員になる確率が上がります。PTA活動は主に保育中に行うため、仕事をしている保護者が役員を引き受けることは難しくなります。特に、役員になることに関して大きな負担を感じる人が多く見られました。役員として仕事を担うことや活動に参加する時間が増えることが要因でした。

【役員になること自体の負担を軽減】

そこで、役員になることへの負担を軽減するため、保護者の不安の一つである、役員としての業務や活動内容について、知らないがゆえに生じる未知への不安を払拭するために、前年度より取り組みを始めました。令和4年度10月より役員会を公聴会としてオンラインで生中継し、公聴希望者が場所を選ばず携帯電話やパソコンで自由に見ることができるようになり、役員会の透明化を図りました。次年度に役員になることを考えている方やその可能性がある方が、公聴してくださいました。公聴した方は、役員会が和気あいあいと開催されていることに安心し、PTA活動の運営に必要な協議や報告など、役員が考えを出し合いながらよりよく運営しようとしていることを感じてくださったようです。また、会の運営に興味をもっていただく機会となりました。

【役員活動時間の負担を軽減】

もう一つの負担、時間を割くことの負担を軽減させるため、令和4年度後半の役員会は毎回の議題に「次年度の役員活動の負担軽減を考える」を掲げ、各役員自身が負担だったこと、時間が掛かり過ぎてしまった活動内容を話し、①活動を縮小できるもの ②無くしてもいいものを出し合い協議しました。

以下は削減できたもののリストで、令和4年度の広報日よりVol.15からの抜粋です。

広報だよりVol.15

今年度役員仕事内容削減項目と来年度削減・改善案

人数が少ない中で、少しでも負担を少なく、より開けたPTA活動であるために
役員一同仕事内容を見直し、新しいやり方を考えてみました。

- ・来年度から役員会回数を3割減に(2ヶ月に1回。行事などが重なる月は月1開催。)(副会長)
- ・文集をクリアファイルから中綴じ印刷にすることで予算とファイリング作業負担の削減(広報)
- ・来年度からPTA会費の集金回数を年3回・一年1回でまとめて集金(会計)
- ・出金伝票の記入をなしに(別の書類で確認ができるため)(会計)

など



にじのはし幼稚園

1年間ありがとうございました

【ハイブリッド役員会で時間の負担を軽減】

令和4年度からは、役員会を全て、参集とオンラインのハイブリッドにしました。役員会のために、園に出向くために割かれていた時間をロスだと考える方、ご自身やお子さんの体調がすぐれない方、など、自宅から参加する方の理由は様々でした。また、園で参加を希望する方の理由も様々でした。園には未就園児用のおもちゃがあるから弟妹がいても参加しやすい、登園後そのまま園に残って参加したい、などの理由でした。ハイブリッドにすることで、役員一人ひとりが役員会への参加の仕方を選択することができ、公平性が生まれ、自分に合った方法で参加でき、時間や心情面での負担が減少したと認識しています。

【PTA活動を楽しむ】

初めて副会長の役職に就いたときは、未知なるものへの不安や責任感、重圧感などがありましたが、いざ始めてみると、1学期中頃には既に副会長としての活動が生活の一部となり、娘が生まれてから5年間の中で、一番充実した日々となりました。そのため、副会長の任期半ばで次期会長選出の時期となった時、自ら会長に立候補をいたしました。「何がそんなに楽しかったのか？」それは、役員仲間と一緒に相談したり、悩んだりしながら、PTA活動の多岐にわたる内容を決めていく過程でした。「子どもたちにとって、幼稚園にとって、保護者にとって、何が一番よいのか」をモットーに、園行事への参加の在り方(にじっこ祭りのお店の出し物、餅つき会の手伝い等々)や開園記念のお祝い品の選定、にじっこガーデンの花植えや水やり、PTA主催の家庭教育学級の講座内容などを考え、役員仲間やPTA会員と一緒に運営し、子ども・保護者・先生方の多くの笑顔を見て、楽しさややりがいを感じました。



<開園記念集会での記念品贈呈>



<開園記念品>



<ガーデニング係活動の様子など>

【心と体に優しい弁当講座の開催】

令和4年度はコロナ禍真っ最中でした。コロナ禍での弁当は15分間の黙食です。「我が子が3歳児で入園し、園での初めての弁当が黙食という状況で、もたせる弁当は、いったい

どんなものがよいのだろうか」と悩みました。そのような疑問は、弁当を作る保護者の方は必ず一度は考えたであろうと思いました。そこで、日本キャラベニスト協会の沼端恵美子先生をお招きし、調理実演を交えながらのオンライン講座を開催することにしました。コロナ禍で様々な規制があるものの、オンラインでの開催は、チャット機能をライブ質問コーナーとして、視聴者（保護者）からの質問に即座に回答していただくという、オンラインならではのよさを活用することができました。PTA役員で、苦戦しながらも話し合いを重ねて準備をし、皆で作りに上げた講座です。学んだレシピの卵焼きは大変おいしく、今でも娘の弁当に毎日入れています。



【毎年恒例の文集作り】

広報の仕事の一つに文集作りがあります。広報担当者が内容や発行に関する企画を立て、2学期末に全園児・教職員に原稿依頼をして制作し、年度末に全会員に配布しています。「好きなこと」「がんばっていること」など、年度によってテーマを工夫し、各家庭に用紙を配布し、家庭ごとに制作してもらっています。形式は決まっていなため、保護者は自由に、園児の絵や写真などで紙面をアレンジし、自由感あふれる楽しい内容となっています。

文集が配布されると、親子で一緒に文集を見たり、読んだりすることで、同学年はもとより、他学年の友達にもより親しみを感じています。隣の小学校に通うお兄さん・お姉さんの名前をいつまでも記憶しているのも、毎年の文集のお陰です。3年間で3冊の文集は、どの幼児にとっても成長の記録にもなり、幼稚園時代の宝物の一つです。毎年、どの保護者も文集の発行を楽しみにし、大事にしています。

【地域の方とのつながりを大切に】

PTA活動をする中で、地域の方々と知り合う機会が増えました。お台場海浜公園での園児の地引網体験、にじっこ祭り、ビーチでの地域大運動会、園の隣のレインボー公園での地域夏祭り、台場児童館祭り、など園や地域の多くの行事に様々な協力してくださり、地域の方が中心となって企画・開催していることを実感しました。地域の行事や祭りには、本園PTAが手伝いをさせていただいています。本園は、園と地域が密接に連携・協力し、地域の方と共に、子どもたちを育てています。子育てがひと段落ついた頃、私たち役員やPTA会員が地域の一員となって、幼稚園・小学校・中学校の子どもたちのために、活動できる場があることが今後の楽しみでもあり、恩返しをしていきたいと思っています。



＜地域防災訓練の様子＞

【おわりに】

今後の本園のPTA活動は、その年その年の役員の皆様でより良い方向を模索しながら活動していくことが求められていると考えます。活動内容や活動量は、時代やその時々の保護者の状況に合わせて、再考・工夫・改善が必要ではないでしょうか。子どもたち・幼稚園・保護者にとって、その時の役員・会員の皆様にとって、負担なく・楽しく活動できることが一番大切だと思います。PTA役員・会員がPTA活動を含めて、楽しく生活し、幸福感を感じることで、活動や園の教育、子どもたちの育ちがよりよくなっていくことを実感しております。

今後も臨機応変に活動内容などを模索し、PTA活動がより充実していくことができるよう、他園や他地域の取り組みの情報を役員で共有し、よい取り組みを取り入れ、よりよいPTA活動の実践に尽力してまいります。今後も、本園を応援していただければ幸いです。

●瀬戸内市立邑久幼稚園PTA活動紹介

「かけはし ～思いをつなげて～」

令和5年度 PTA会長 森木 ゆうき

この度は、令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰という、名誉ある表彰を賜りましたことに深く感謝申し上げます。この受賞は、これまで本園のPTA活動にご尽力くださった歴代のPTA役員・会員の皆様と、地域の皆様の温かいご協力とご支援があったからこそと、様々な方々に感謝の気持ちで

いっぱいです。

本園は、岡山県の西南部に位置し、豊かな自然に恵まれた田園地帯に位置します。近年は住宅団地が急増し、核家族化が進んできています。現在では、97名の園児が通っています。今年度のPTAでは、「かけはし～思いをつなげて～」というテーマを掲げました。歴代のPTAの方々が大切に育んでくださった思いをつないでいくように、また、保護者同士、親と子、幼稚園と保護者、地域と幼稚園などのよりよいつながりがもてるようにと考え、今年度のPTAの活動を、

「子どもたちの笑顔のために」を合言葉に、「無理をせず、できる人ができる形で」方法を模索しながら実践しています。

【PTAの運営について】

本園のPTAは、会長、副会長2名、会計の四役、研修部、学級部、交通部で運営し、保護者一人一人がいずれかの部に所属しています。本園のPTAの実態として、就労している保護者、未就園児をもつ保護者、子育てに余裕ができてきている保護者など、様々な状況があります。どのような状況の保護者も参加でき、保護者同士のつながりがもてるようなPTA活動の在り方やPTA役員の仕事内容が毎年課題になっています。歴代のPTA会長さんを始め、会員の皆さんがPTAの活動として積み重ねて来られたものを引き継ぎながら、現代の課題や実態に即した会員の活動、役員の選出方法や仕事内容の見直しをし、少しずつ改善を図っています。



<PTA 各部からのお知らせ掲示板>

【PTAの活動】

○研修部の活動

年間3回の「家庭教育学級」を実施しています。保護者同士が様々な体験や子育てに関する研修を通して、お互いの親睦を図り、子育てのヒントを得られることで、家庭教育力の向上を図る目的です。昨年度までは、コロナ禍であったため、保護者同士の間隔が確保しやすい方法を考えて、講演を拝聴する会を3回実施しました。アフターコロナである今年度は、講演会だけでなく、親子応援学習プログラム、親子の触れ合い活動も実施しました。講演会や親子応援学習プログラムでは、講話の拝聴後、保護者同士が子育てについての悩みや喜びを話し合いました。



<親子応援学習プログラム>

その機会があったことで、互いに認め合い、共感し合うことができ、子育ての悩みや不安な気持ちを少し和らげることができました。また、親子触れ合い活動では、家庭でも簡単にできる

遊びを教えていただき、親も子も本気で触れ合って遊びました。子どもたちのうれしそうな表情に親も自然と笑顔になり、“我が子がかわいい”と感じられる時間になりました。家庭教育学級では、事前に参加希望をとって、関心のある会に主体的に参加できるようにしました。研修の内容は掲示板で紹介をし、参加できなかった人にもお知らせできるようにしました。



<親子ふれあい教室>

○学級部の活動

園児と共に環境問題を考え、資源ごみ回収を年間5回実施しています。アルミ缶、ペットボトル、牛乳パックなどを分別して入れられるコーナーを担当の人が設置し、保護者や園児が家庭から持参した資源ごみを分類して入れられるようにしています。



<担当者による資源ごみの分別作業>

ベルマークも、番号別の分類箱を設置することで、お子さんと一緒に分類している人もいます。回収日には、担当者が集まり、分類や整理を行っています。短時間ではありますが、作業をしながら違うクラスの保護者の方と顔を合わせたり話をしたりできる場になっています。ベルマーク収集・テトラパック回収も行っています。

ベルマーク収集は、以前は、担当者が集まって集計をしていましたが、集まらなくても作業ができる方法を工夫しました。

そうすることで、就労している方も無理なく自分の都合に合わせて活動することができます。得られた収益金は、園児の記念品として還元されます。



○交通部の活動

幼児が交通安全について知り、安全に生活できるように交通安全教室を年間3回行っています。園児の年齢別に内容を検討し、発達に即した方法で交通教室を実施します。地域の交通指導員の方や関係機関の方をお招きし、実際に道路を歩いたり、模擬道路を使って横断の仕方を練習したりします。PTAの担当者も園児と一緒に歩くことで、園児が交通安全について学んでいる場を共有することができます。また、園児が楽しく交通安全が学べるように、専門の機関の方にも依頼をし、交通指導をしていただきます。そして、その交通教室の様子を写真や文章で表し、掲示板で保護者に発信します。そうすることで、園児だけでなく、保護者も交通安全について再認識したり、家庭での話題にしたりしています。



＜路上での交通教室＞



＜交通教室の様子の掲示＞



＜雨天時の歩行の交通教室＞

○読み聞かせボランティアの活動

保護者の有志が集まった絵本の読み聞かせボランティアが、毎月園児に絵本の読み聞かせをします。その季節の絵本や、園児の生活に沿った内容の絵本などの読み聞かせを行い、園児にとって豊かな体験ができるようにしています。



＜読み聞かせボランティアのお母さんのお話し会＞

また、絵本コーナーの壁面に季節ごとの装飾をし、園児が

季節感を味わいながら絵本を見ることができるようにしています。園児はワクワクした表情やキラキラ輝く目で、絵本の読み聞かせを聞きます。ボランティアのお母さん方も園児の喜ぶ様子から温かい気持ちになり、「緊張したけど読み聞かせをしてよかった」と大きな喜びを味わいます。



＜絵本コーナーの壁面装飾作成＞

○地域の方との連携活動

地域の方に来園していただき、サツマイモの畑作り、苗植え、サツマイモの収穫を一緒に行います。サツマイモの生長について、園児にもわかりやすく教えてくださり、園児もサツマイモの栽培について興味をもつことができます。地域の方に支えていただくことは、園児にとって豊かな活動を展開することにつながっています。



＜地域の方と一緒にサツマイモの収穫＞

【終わりに】

ここ数年はコロナ禍であったため、様々なPTA活動に制限がありましたが、そのような中でも、先輩のPTA役員の方々が「子どもたちのために何かしたい」「コロナ禍でもできる安全な方法があるかもしれない」「幼稚園のために何か協力できることがあるのでは」などと、前向きに一生懸命考えて取り組んでくださいました。今回いただいた賞で、改めて、PTAの在り方を確認し、検討する機会をいただきました。

「子どもたちの笑顔のために」これからも、活動を通して、保護者同士が笑顔でつながり、「参加してよかった」「また参加したい」と思えるようなPTA活動を工夫していきたいと思います。そして、様々な人の思いをつなぐ「かけはし」となるPTAでありたいと思います。



後援：香川県

また、グルメでは瀬戸内海に面していることで海の幸に恵まれ、年中新鮮な魚介類を楽しむことができます。また、新たな香川のソウルフードとして注目を浴びているのが、鳥の骨付きもも肉を1本まるごとオープン釜などで焼き上げた「骨付鳥」。おや鳥とひな鳥を選ぶことができ、子どもからご年配の方まで幅広い年齢層に愛されています。県産オリーブのしほり果実を配合した特別な餌で育てられ、とても柔らかく、脂身に甘みとうま味がある肉質の「オリーブ牛」や「オリーブ夢豚」。オリーブの葉の粉末を餌にして養殖した「オリーブハマチ」。そして、絶対外せない美味しい「うどん」も堪能してください。小さな県のため、短い滞在日数でも魅力あふれる観光スポットもグルメも満喫できます。是非、香川県の魅力を存分に感じ、心と体を癒していただきたいと思います。全国の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

令和5年度
顧問・役員のご紹介